

広報広聴委員会行政視察報告

【視 察 日】平成 27 年 8 月 3 日(月)～4 日(火)

【視 察 委 員】石井通春委員長、鈴木岳幸副委員長、平井登委員、
多田晃委員、油井和行委員、遠藤孝委員

【視 察 先】茨城県 大洗町・埼玉県 越谷市

茨城県大洗町議会

【主な調査事項】 傍聴席を満席にしている実態について

(1) 大洗町の概要

茨城県水戸市に隣接し鹿島灘を望む人口 1 万 7 千人強の町、面積 23.74 平方メートルと小さな自治体で議員定数は 13 名。水戸市のベットタウンとしての町、また北海道行のフェリーが 1 日 2 往復発着する関係で水産業や流通業などが盛んに行われている。人口は減少傾向にあるが、特に合併の話もなく独自の町路線を進めている。

(2) 傍聴席を満席にする取組の経緯・内容

全国町議会平均の傍聴者数は 70 名であるが、大洗町は 350 名であり、インターネット配信を行えば「傍聴者が減る」という逆の発想を当然のように実行している、また県内各地の町議会議長が大洗町議会に傍聴に来ているほどである。

《具体的な取り組みとして》

- A：定例議会前に町内の各団体に対し「議会開催案内、傍聴のお願い」を議長名の DM を発送する。記載内容も議員名と質問時間だけでなく、質問の標題まで可能な限り充実した記載をする。
- B：一般住民に傍聴を呼びかけるポスターを議員が自ら事業所、コンビニ、スーパーなど 70 か所に貼り出す。
- C：終了後、傍聴者にアンケートを配布して記入してもらう
- D：定例会終了後、議長名で傍聴者に対しお礼の DM を発送する
- E：次回定例会開催前に、これまで参加した傍聴者全員に議長名で議会開催の DM を再度発送するなど、DM を重視した町民への議会傍聴の推奨が主な取り組みになっている。また運営面では、①一般質問は午前中 3 名だけの開催にする（午後は傍聴者も眠くなる時間なのでという理由）②年に一度は日曜日議会を開催する③パワーポイントを駆使するなど、傍聴者に配慮した取り組みが行われている。

《その他の取組として》

- A：高校生議会の開催～議長の呼びかけで実施されている。議員が執行部側となり答弁をする。通告性は取らず質問は当日の高校生任せである。議員にとっては答弁者の気持ちを理解できる機会となっている。
- B：議会報告会は 2 班で 3 日間、合計 5 か所で開催されている

C : 「議会だより」の議員写真はその都度本会議場で撮影したものを掲載している。臨場感あるものとして町民の好評を得ている。

D : 常任委員会は同日開催にせず、3つの常任委員会を3日間で実施。所属外の委員が傍聴できるようにしている。質問も可能としているが採決権はない。

(3) 今後の課題

徐々にではあるが、傍聴者が減りつつある状況（最盛期は400名を超えていた）で今まで同様の取り組みではだめだろうという事である。

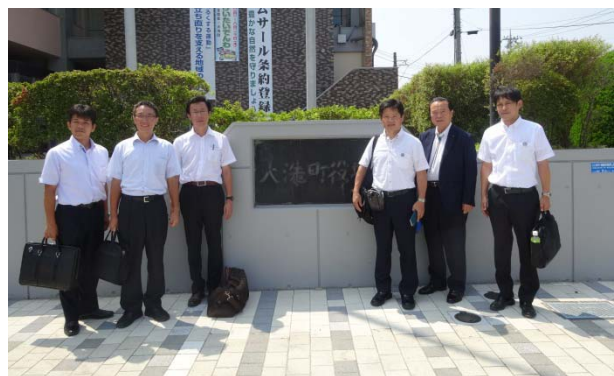
何が傍聴者増の「決め手」になっているかは、明快に示すことが出来ないが、議員自ら封筒詰めをし、DM発送作業や掲示板を作成している姿を「議会だより」掲載しているため、状況が町民に伝わり、それが反響を呼んでいるのではないかと言う話である。

また、一般質問の再質問以降は執行部との答弁調整は行わず、喧々諤々の議論となっているので、見ている側としてそれが面白いのではないか、という事である。

(4) 本市に反映できると思われる点

平成19年の改選で新旧交代が大幅に進み、新しいメンバーが主導となって一連の「改革」を実施してきた。旧来の形にとらわれず、やれることはやれるメンバーでドンドン実施していこうと行う事で現在の到達点がある。狭い町域で議員の地域性がそれほどない街なので行える面があったようである。

議員が行動している姿を見せているのが大洗町の成功の「決め手」になっているように思う。議会運営などは全体の課題であるが、傍聴者増の取組、高校生議会などについては本委員会でも検討を進めていきたい。



埼玉県越谷市議会

【主な調査事項】 大学生と議会との模擬議会開催について

(1) 越谷市の概要

人口33万人の埼玉県南東部の市、都心から交通至便な街であり人口が増加して急速に発展している中核都市である。昭和33年の市制施行当時は人口4万8千人であり、現在は7倍にまで膨れ上がっている。その為か、市議選投票率は39%である。議員定数は32名で人口と比べて極端に少ないが、これは人口の増加に応じて議員数を増やすこともなかったため、現在の定数となっている。

(2) 大学生と議会との模擬議会の具体的な取り組みと経緯・内容

平成 22 年から隔年で実施されている。平成 21 年の会派代表者会議において、議長所属会派代表から模擬議会実施の提案があり、12 月に翌平成 22 年 5 月に実施する事を決定した。現在まで 3 回実施されている。全国各地で行われている「執行部との子ども議会」ではなく、議員が執行部役となり答弁するものであり、特に大学生を対象としているのは越谷市と佐賀県嬉野市しか確認できていない。

《具体的な取り組みとして》

A：市内にある 2 大学（埼玉県立大学、文教大学）に対して学生議員を選出するようにお願いをする。また市在住の他大学に通う学生にも公募で呼びかける。（定数は議員定数と同数の 32 名、2 大学から 16 名と公募が 16 名）なお、呼びかけるまでにすでに開催要項、学生募集要領などの形式が定められている。

B：学生議員が質問通告を作成（作成期間は約 2 か月間）し、事務局に提出。なお質問時間は再質問と答弁を含めて 1 人 8 分。

C：答弁議員（基本的には 4 常任委員会からそれぞれ 4 名の 16 名で構成し、1 議員が 2 学生を担当する）と答弁書を作成し答弁書を執行部に提出して確認を得る。同時に学生に対して説明会を実施する。

D：当日は市長・副市長・教育長も出席するが、あいさつのみである。また議長役は学生が行う。8 分間のうち再質問以降はどういう質問が出るかは当日次第であって、答える市議もかなり勉強していないと恥をかくことになりかねないので相当緊張するとの事である。

また、市議会議員の間で異なる意見がある問題に対して質問が出た場合は、「議員個人として・・・こう思う」と答えることにして統一した答えを求めているわけではない。1 回目は 32 名中 7 名しか再質問がなかったが、3 回目は 20 名以上が再質問を行うなど、学生側も慣れてきた様子である（参加学生は 3 回ともすべて異なる学生が参加している）

E：終了後に市議と学生との意見交換会を行う。なお、ほぼ 1 日かけて実施されていて特別職もずっと同席して学生の意見や質問を聞いているとの事。

(3) 今後の課題

参加した学生にアンケートを行っているが、ほとんどすべてから「参加してよかった」との声を頂いている。公募型の参加学生が呼びかけるだけでは集まらない。成人式役員などに依頼して参加してもらっているとの事である。また、対象を高校生にする事も検討しているが現在大学生で行っているのが「手一杯」でなかなかそこまで話が進まないとの事である（18 歳選挙権に関して）

近所づきあいの少ない駅前マンションに住む住民が大きな人口比を占めていて、選挙に関心がないので、模擬議会の実施ですぐに投票率向上にはつながっていない。

(4) 本市に反映できると思われる点

本委員会で現在小学生高学年もしくは中学生との意見交換会（模擬議会）を検討しているが、全議員と学生の模擬議会も検討を進めていく必要があるのではないかと。

